

歳出予算繰越事例集

(補助事業編)

財務省関東財務局



目次

| | |
|--|----|
| ◆ 「箇所別調書及び理由書」の「計画」欄と「事由」欄の整合 | 3 |
| ◆ 繰越事由が基本計画の策定による場合（ <u>契約前</u> に事由が発生した場合） | 4 |
| ◆ 繰越事由が地元調整による場合（ <u>契約後</u> に事由が発生した場合） | 8 |
| ◆ 繰越事由が占用許可物件の移設による場合 | 12 |
| ◆ 繰越事由が状況変化に伴う施工能率低下による場合 | 14 |
| ◆ 繰越事由が他事業との調整による場合 | 16 |
| ◆ 繰越事由が関係機関との協議による場合 | 18 |
| ◆ 繰越事由が先行工事の遅延による場合 | 20 |
| ◆ 繰越事由が入札不調に伴う仕様の変更による場合 | 22 |
| ◆ 繰越事由が工事着手後の工法の変更による場合 | 24 |
| ◆ 繰越事由が工事用用地借地交渉の難航による場合 | 26 |
| ◆ 繰越事由が用地・補償交渉の難航による場合（ <u>契約前</u> に事由が発生した場合） | 28 |
| ◆ 繰越事由が用地・補償交渉の難航による場合（ <u>契約後</u> に事由が発生した場合） | 30 |

目次（つづき）

| | | |
|--------------------|-------|----|
| ◆ 不測の事象が複数生じた場合① | | 32 |
| ◆ 不測の事象が複数生じた場合② | | 34 |
| ◆ 既翌債承認額の増額変更 | | 36 |
| ◆ 費用分担 | | 39 |
| ◆ 合併施行 | | 42 |
| ◆ 改め明許 | | 45 |
| ◆ 国庫債務負担行為 | | 48 |
| ◆ 事故繰越し | | 51 |
| ➢ 理由書（通常用） | | 52 |
| ➢ 繰越計算書 | | 53 |
| ➢ 「交付決定状況及び事業費総括表」 | | 54 |
| ➢ 理由書（災害復旧・復興事業用） | | 55 |
| ➢ 「繰越事項内執行状況一覧表」 | | 56 |
| ➢ 「工程表」 | | 58 |
| ◆ 審査表 | | 59 |

「箇所別調書及び理由書」の「計画」欄と「事由」欄の整合

| 繰越事由 | | 「事由」欄の()書き (例) | 「計画」欄に記載する繰越し原因の項目 (例) | 補足説明 |
|-----------|---------------------------------|----------------------------|--|---|
| 計画に関する諸条件 | ア | (騒音)、(日照権)、(通行規制時間) | 地元調整 | 補償処理を伴う場合は、「補償処理の困難イ」となる。 |
| | | (電気) | 占用許可物件(電柱)の移設 | |
| | イ | (水質汚濁) | 漁協との調整 | 工事(業務)着手後の状況変化による場合に限る。 |
| | | (埋設物) | 埋設物(コンクリート殻)撤去 | |
| | ウ | (湧水)、(地盤) | 湧水対策検討 軟弱地盤による施行能率低下 | |
| | | (運搬路選択) | 地元調整 | |
| | エ | (敷地の選定)、(建物の配置) | 基本計画の策定 | |
| | | (施工規模の縮小)、(河川法線の変更) | 基本計画の変更 | |
| オ | (水道)、(電気)、(鉄道) | 他事業との調整 | 事業主体又は所管省庁が異なる事業との調整難航(判断しかねる事業の場合は、項目の後に()書きで他事業の事業主体を記入する。) | |
| | (災害復旧事業)、(道路) | 他事業との調整(〇〇国道事務所) | | |
| カ | (道路交通法・〇〇警察署) | 関係機関との協議 | 関係法令に基づく協議、許認可等の対象となる第三者機関との協議難航 | |
| | (文化財保護法・〇〇教育委員会) | 埋蔵文化財調査 | | |
| キ | (先行工事が〇〇により遅延したため) | 先行工事(電線共同溝の設置) | 事業主体及び所管省庁が同一の事業の遅延(遅延理由も記入する) | |
| | (〇月の入札不調の結果を踏まえた谷止工の個数及び位置の見直し) | 再設計積算 | | |
| 設計に関する諸条件 | ア | (基礎工法) | 設計積算 | ・事業内容が工事の場合に限る。 ・「ア」は着工前の工法選択の難航、「イ」は着工後の状況変化による遅延 ・契約相手方の倒産により、設計の変更や見直しを行った場合は、左の「設計に関する諸条件ウ」の例を準用する。 |
| | イ | (湧水処理の追加) | 設計変更 | |
| | ウ | (〇月の入札不調の結果を踏まえた地盤改良工の見直し) | 再設計積算 | |
| 気象の関係 | ア | (豪雨) | 豪雨により流入した土砂の撤去 | 「気象の関係イ～エ」も、本例を準用する。 |
| 用地の関係 | ア | (価格)、(境界)、(相続) | 用地交渉(補償処理を伴う場合は「用地・補償交渉」) | |
| | イ | (価格)、(位置)、(時期) | 借地交渉 | |
| | ウ | (仮換地の指定が〇〇により遅延したため) | 仮換地の指定遅延 | |
| 補償処理の困難 | ア | (価格)、(位置)、(移転先設案) | 補償交渉(用地買収を伴う場合は「用地・補償交渉」) | 補償処理を伴わない場合は、「計画に関する諸条件ア」となる。 |
| | イ | (粉塵)、(電波障害) | 地元調整 | |
| | ウ | (物件移転が〇〇により中断したため) | 〇〇による物件移転作業の中断 | |
| 資材の入手難 | ア | (セメント) | 資材の不足による工事中断 | 資材や労働者の不足は、大災害の発生など、客観的事実の発生に基づく場合に限る。 |
| | イ | (労務者) | 鉄筋工の手配調整 | |
| | ウ | (災害) | 運搬路の被災 | |
| | エ | (納期遅延) | 特注品(コンテナ)の納期遅延による工事中断 | |

繰越事由が基本計画の策定による場合 (契約前に事由が発生した場合)

- ✓ 「基本計画の策定」にあたり、「建物の配置」の検討で当初計画より2ヶ月不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が基本計画の策定による場合（契約前事由）

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当 初 計 画) 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事 業 完 了 予 定 年 月 日 | 事 由 | |
|-----------------------|-----------------|--|------------------------------|------------------------|-------------|------------------|----------------------|-----------------------------------|--|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | | |
| ○○施設建築工事費補助 (○○街区) | ○○市○○ (○○街区) | ○○市○○ (○○街区) ○○施設建築工事 RC-4 延面積 ○○㎡ 電気設備工事 一式 機械設備工事 一式 エレベーター設備工事 1基 | 基本計画の策定 (○年4月) ○年4月～6月 | 円 150,000,000 | 円 0 | 円 150,000,000 | △年4月30日 | 計画に関する諸条件 エ (建物の配置) (4月～6月) | |
| | | | 設計積算 (○年5月～6月) ○年7月～8月 | | | | | | |
| | | | 工事着手 (○年7月) ○年9月 | | | | | | |
| | | | 工事完成 (△年2月) △年4月 | | | | | | |

(注) (目の細分)ごとに別業とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

(補足)

- 「(当初計画)変更計画」の期間は、その項目にかかる事前準備(例：基本計画の策定等)から工事等が完了するまでの期間としてください。
- 「(当初計画)変更計画」における「設計積算」の期間は、工事等発注にかかる設計及び積算から契約に至るまでの期間としてください。
また、入札不調等に伴い計画や設計の見直しを行った場合は、「再設計積算」として当該見直し作業から契約に至るまでの期間を記載してください。
(したがって、原則として「設計積算」又は「再設計積算」の終期と工事等の着手月は、同一又は連続します。)

P5の事例に係る承認要求書

関東財務局長 殿

必ず契約締結前に翌債承認要求を行い、承認を経てください。

番 号
令和〇年7月10日

申請者が支出負担行為計画示達を受けた支出負担行為担当官と異なる場合(例：〇〇県保健福祉部長
〇〇県農林水産部長 〇〇県環境森林部長 等)は、システム上、冒頭に「支出負担行為担当官」が
表示されますので、修正(「支出負担行為担当官」を抹消)のうえ提出してください。

支出負担行為担当官 〇〇県都市整備部長

翌年度にわたる債務負担の承認要求書

国土交通省所管
令和〇年度 一般会計

支出負担行為担当官 〇〇県都市整備部長に係る分

| 部局等、項及び目(目の細分)並びに事項 | 支出負担行為計画示達額 | 翌年度にわたる債務負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 摘要 | | | |
|------------------------------|-------------|--------------------|-------------|--------------------|-------------|-------------------|-----------------|---------------|
| | | | 本年度分 | 翌年度分 | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の相手方及び年月日 | 事務事業の既済高及び検査年月日 | 事務事業の完了の見込年月日 |
| (組織) 国土交通本省 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | | | |
| 280 社会資本総合整備事業費 | | | | | | | | |
| 47052-1825-00 社会資本整備総合交付金 | 355,000,000 | (0) 150,000,000 | (0) 0 | (0) 150,000,000 | | | | |
| (目の細分) 社会資本整備総合交付金 | 350,000,000 | (0) 150,000,000 | (0) 0 | (0) 150,000,000 | | | | |
| (事項) 〇〇施設建築工事の補助(〇〇街区) | 150,000,000 | (0) 150,000,000 | (0) 0 | (0) 150,000,000 | 150,000,000 | 〇〇県知事 令和〇年〇月〇日 | | 令和△年4月30日 |
| (その他の事項) | 200,000,000 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |
| (その他の目の細分) | 5,000,000 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |

交付決定の相手先を記載してください。
※補助事業は「交付決定」が支出負担行為となります。

〇翌年度にわたる債務負担を必要とする理由 別紙理由書のとおり

「箇所別調書及び理由書」と一致します。

P5の事例に係る承認要求書（事項別内訳表）

翌年度にわたる債務負担の承認要求書（事項別内訳表）

国土交通省所管
令和〇年度 一般会計

| 部局等、項及び事項 | 支出負担行為計画 示 達 額 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | |
|------------------------|-------------------|------------------------|-------------|--------------------|
| | | | 本年度分 | 翌年度分 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| (組織) 国土交通本省 | | | | |
| 280 社会資本総合整備事業費 | | | | |
| <u>47</u> | | | | |
| 社会資本総合整備事業に必要な経費 | 150,000,000 | (0) 150,000,000 | (0) 0 | (0) 150,000,000 |
| (事項) ○○施設建築工事の補助(○○街区) | 150,000,000 | (0) 150,000,000 | (0) 0 | (0) 150,000,000 |

予算事項のコードが、承認要求書の「目」の左側5桁のうち左2桁の数字と一致していることを確認してください。

繰越事由が地元調整による場合 (契約後に事由が発生した場合)

- ✓ 工事着手後に地元から迂回路のルート変更要望があり、その調整に2ヶ月の不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が地元調整による場合（契約後事由）

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

「目の細分」が無い場合は「目」を記入してください。

（目の細分） 防災・安全交付金

| 事 項 | 箇所名 | 事業概要 | （当初計画） 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 円 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|--|-------------|--|--|-----------------------------|-------------|-------------|---------------|---------------------------------|
| | | | | | 本年度分 円 | 翌年度分 円 | | |
| 落石防護柵設置等工事の補助 （〇〇市〇〇地内ほか10箇所） | 〇〇市 〇〇地内 | 〇〇市〇〇地内 落石防護柵設置等工事 斜面安定工 A = 1,230㎡ 落石防護柵工 L = 180m | 地元調整 〇年 4月 設計積算 〇年 5月～7月 工事着手 〇年 8月 地元再調整 (-) 〇年 8月～9月 工事完成 (△年 3月) △年 5月 | 99,000,000 | 20,000,000 | 79,000,000 | △年5月31日 | 計画に関する諸条件 ア (迂回路) (8月～9月) |
| 事由の発生に伴い新たに発生した項目（工事中断の要因となった項目）の計画期間については、上段は（一）とし、下段に当該項目にかかる期間を本書きしてください。 | | | | | | | | |
| 1件 | 合計 | 11箇所 | 略 | 略 | 略 | 略 | 略 | 略 |
| | | | | 199,600,000 | 79,840,000 | 119,760,000 | | |

事由の発生に伴い新たに発生した項目（工事中断の要因となった項目）の計画期間については、上段は（一）とし、下段に当該項目にかかる期間を本書きしてください。

契約月としてください。

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

不測の事象に該当する事由の、
（具体的な内容）
（発生から完結までの期間）
を記載してください。

承認要求書に記載する事項順に番号を記載してください。
事項数が複数ある場合や箇所数が複数ある場合は、
「事項番号 - 箇所番号」を付してください。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部署名: | |
| 担当者氏名: | |
| 電話番号: | |

（補足）

- 「（当初計画）変更計画」の期間は、その項目にかかる事前準備（例：地元調整にかかる説明資料作成等）から工事等が完了するまでの期間としてください。
- 「（当初計画）変更計画」における「設計積算」の期間は、工事等発注にかかる設計及び積算から契約に至るまでの期間としてください。
また、入札不調等に伴い計画や設計の見直しを行った場合は、「再設計積算」として当該見直し作業から契約に至るまでの期間を記載してください。
（したがって、原則として「設計積算」又は「再設計積算」の終期と工事等の着手月は、同一又は連続します。）

P9の事例に係る承認要求書

関東財務局長 殿

必ず変更契約締結前に翌債承認要求を行い、承認を経てください。

番 号
令和○年9月30日

申請者が支出負担行為計画示達を受けた支出負担行為担当官と異なる場合(例：○○県保健福祉部長
○○県農林水産部長 ○○県環境森林部長 等)は、システム上、冒頭に「支出負担行為担当官」が
表示されますので、修正（「支出負担行為担当官」を抹消）のうえ提出してください。

支出負担行為担当官 ○○県土木部長

翌年度にわたる債務負担の承認要求書

国土交通省所管
令和○年度 一般会計

支出負担行為担当官 ○○県土木部長に係る分

| 部局等、項及び目(目の細分)並びに事項 | 支出負担行為計画示達額 | 翌年度にわたる債務負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 摘要 | | | |
|---------------------------------------|-------------|--------------------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------------|-----------------|---------------|
| | | | 本年度分 | 翌年度分 | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の相手方及び年月日 | 事務事業の既済高及び検査年月日 | 事務事業の完了の見込年月日 |
| (組織) 国土交通本省 | | | | | | | | |
| 280 社会資本総合整備事業費 | | | | | | | | |
| 47052-1825-00 防災・安全交付金 | 300,600,000 | (0) 199,600,000 | (0) 79,840,000 | (0) 119,760,000 | | | | |
| (目の細分) 防災・安全交付金 | 300,500,000 | (0) 199,600,000 | (0) 79,840,000 | (0) 119,760,000 | | | | |
| (事項) 落石防護柵設置等工事の補助 (○○市○○地内ほか10箇所) | 199,600,000 | (0) 199,600,000 | (0) 79,840,000 | (0) 119,760,000 | (0) 199,600,000 | ○○県知事 令和○年○月○日 | | 令和△年5月31日 |
| (その他の事項) | 100,900,000 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |
| (その他の目の細分) | 100,000 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |

交付決定の相手先を記載してください。
※補助事業は「交付決定」が支出負担行為となります。

○翌年度にわたる債務負担を必要とする理由 別紙理由書のとおり

「箇所別調書及び理由書」と一致します。

P9の事例に係る承認要求書（事項別内訳表）

翌年度にわたる債務負担の承認要求書（事項別内訳表）

国土交通省所管
令和〇年度 一般会計

| 部局等、項及び事項 | 支出負担行為計画 示 達 額 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | |
|------------------------------------|-------------------|------------------------|-------------------|--------------------|
| | | | 本年度分 | 翌年度分 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 |
| (組織) 国土交通本省 | | | | |
| 280 社会資本総合整備事業費 | | | | |
| 47 社会資本総合整備事業に必要な経費 | 199,600,000 | (0) 199,600,000 | (0) 79,840,000 | (0) 119,760,000 |
| (事項) 落石防護柵設置等工事の補助 (〇〇市〇〇地内ほか10箇所) | 199,600,000 | (0) 199,600,000 | (0) 79,840,000 | (0) 119,760,000 |

予算事項のコードが、承認要求書の「目」の左側5桁のうち左2桁の数字と一致していることを確認してください。

繰越事由が占有許可物件の移設による場合

- ✓ 電力会社に占有許可している電柱の移設工事が2ヶ月遅れたため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が占用許可物件の移設による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事 業 概 要 | (当 初 計 画) 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事 業 完 了 予 定 年 月 日 | 事 由 | | |
|--------------------------|-------------------------------|---|-------------------------------------|------------------------|-------------|-----------------|----------------------|---------------------------------|--|--|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | | | |
| 県道○○号線○○工区 交差点改良事業の補助 | 県道○○号線 ○○工区 ○○市○○地内 | ○○市○○地内 交差点改良事業 交差点改良工事 総延長 L=○○m 幅 員 W=○○m | 基本計画の策定 ○年5月～7月 | 円 10,000,000 | 円 0 | 円 10,000,000 | △年5月31日 | 計画に関する諸条件 ア (電気) (8月～10月) | | |
| | | | 占用許可物件（電柱）の移設 (○年8月) ○年8月～10月 | | | | | | | |
| | | | 設計積算 (○年9月～10月) (○年11月～12月) | | | | | | | |
| | | | 工事着手 (○年11月) △年1月 | | | | | | | |
| | | | 工事完成 (△年3月) △年5月 | | | | | | | |

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

契約（予定）月としてください。

（電気）（上下水道）（ガス）など
移設対象物を記載してください。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

繰越事由が状況変化に伴う施工能率低下による場合

- ✓ 施工中、当初想定していなかった位置に水道管が出現したことに伴い施工能率が低下したため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が状況変化に伴う施工能率低下による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当 初 計 画) 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予 定 年 月 日 | 事 由 |
|-------------------------|---------------------|--------------------------------------|--|------------------------|-----------------|-----------------|-------------------|-------------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| ○○市公共下水道事業の 補助（○○分区） | ○○分区 ○○市○○地先 | ○○市○○地先 污水管新設工事 工事延長 L=○○m | 設計積算 ○年4月～6月 | 円 66,150,000 | 円 26,460,000 | 円 39,690,000 | △年5月31日 | 計画に関する諸条件 イ (埋設物) (11月) |
| | | | 工事着手 ○年7月 | | | | | |
| | | | 不明埋設物（水道管）への 対策検討 (-) ○年11月 | | | | | |
| | | | 工事完成 (△年3月) △年5月 | | | | | |
| | | | ※ 施工能率低下により1ヶ月 増工 | | | | | |

契約月としてください。

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

状況変化により施工能率が低下する等の場合は、
状況変化に対応した期間以上に事業全体の期間が
遅延する場合があります。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

繰越事由が他事業との調整による場合

- ✓ 他事業（事業主体又は所管省庁の異なる事業）が2ヶ月遅延したことにより、当該工事にかかる設計積算の開始が遅れ、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が他事業との調整による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当 初 計 画) 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事 業 完 了 予 定 年 月 日 | 事 由 |
|--------------------------|-------------------------------|---|------------------------------------|------------------------|-------------|-----------------|----------------------|----------------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 県道○○号線○○工区 交差点改良事業の補助 | 県道○○号線 ○○工区 ○○市○○地内 | ○○市○○地内 交差点改良事業 交差点改良工事 延長 L=○○m 幅員 W=○○m | 他事業との調整（○○市） （○年8月） ○年8月～10月 | 円 10,000,000 | 円 0 | 円 10,000,000 | △年5月31日 | 計画に関する諸条件 オ （下水道） （8月～10月） |
| | | | 設計積算 （○年8月～9月） ○年10月～11月 | | | | | |
| | | | 工事着手 （○年10月） ○年12月 | | | | | |
| | | | 工事完成 （△年3月） △年5月 | | | | | |

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。
※他事業とは、事業主体または所管省庁が異なる事業をいい、事業主体または所管省庁が同一の場合は「事由」欄を「計画に関する諸条件 キ」とし、具体的事由を記載してください。

契約（予定）月としてください。

補正予算の場合は「補正」と記入し、下段の（ ）書きに何次補正かを記入してください。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

繰越事由が関係機関との協議による場合

- ✓ 道路交通法に基づく警察署との協議に2ヶ月の不測の日数を要したことにより、当該工事にかかる設計積算の開始が遅れたため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が関係機関との協議による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

(目の細分) 社会資本整備総合交付金

下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇所名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|--------------|---------|--|---|------------------------|-------------|----------------|---------------|---------------------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| ○○地区土地区画整理事業 | ○○市○○地区 | ○○市○○地区 事業主体 ○○市 土地区画整理事業 整備面積 A=○○ha | 関係機関との協議 (○年4月) ○年4月～6月 設計積算 (○年5月～6月) ○年7月～8月 工事着手 (○年7月) ○年9月 工事完成 (△年3月) △年5月 | 円 5,915,000 | 円 0 | 円 5,915,000 | △年5月31日 | 計画に関する諸条件 (道路交通法：○○警察署) (4月～6月) |

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

契約（予定）月としてください。

協議・許認可の根拠
法及び協議先等を記
載してください。

(注) (目の細分) ごとに別業とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

繰越事由が先行工事の遅延による場合

- ✓ 先行工事（事業主体及び所管省庁が同一の事業）において、所有者不明の配管が発見され、その所有者確認に1ヶ月を要したため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が先行工事の遅延による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇所名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|---------------------------|-------------------------------|---|--|------------------------|-------------|------------|---------------|--|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 県道○○号線道路拡幅 事業の補助（○○工区） | 県道○○号線 ○○工区 ○○市○○地内 | ○○市○○地内 道路拡幅事業 道路拡幅工事 延長 L=○○m 幅員 W=○○m | (先行工事（電線共同溝の設置） (○年6月～8月) ○年6月～9月 設計積算 (○年7月～8月) ○年7月～9月 工事着手 (○年9月) ○年10月 工事完成 (△年3月) △年4月 | 円 10,000,000 | 円 | 円 | △年4月30日 | 計画に関する諸条件 キ (先行工事が所有者不明 の配管の確認で遅延した ため。) (8月～9月) |
| | | | | | 0 | 10,000,000 | | |

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

先行工事については、()書きで先行工事の
事業内容も記載してください。

契約（予定）月としてください。

「キ」（その他）の場合は、()内に
具体的事由を記載してください。

（注）（目の細分）ごとに別業とし、合計を記載すること。

担当部課名：
担当者氏名：
電話番号：

1

繰越事由が入札不調に伴う仕様の変更による場合

- ✓ 入札不調結果を踏まえ、仕様に何らかの変更を加えなければならず不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が入札不調に伴う仕様の変更による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）防災・安全交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当 初 計 画) 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事 業 完 了 予 定 年 月 日 | 事 由 |
|--------------------------------------|--------------------|--|--|------------------------|-------------|----------------|----------------------|---|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| ○○県河川改修事業の補助 （一級河川○○川ほか ○○箇所分） | 一般河川○○川 ○○市○○地先 | ○○市○○地先 ○○橋架替工事（○○ 号線）橋りょう工事 取付道路工 延長 L=○○m 幅員 W=○○m 護岸工 延長 L=○○m 変更後 取付道路工 延長 L=○○m 幅員 W=○○m | 関係機関協議 ○年4月～6月 設計積算 ○年7月～9月 再設計積算 (-) ○年10月～12月 工事着手 (○年10月) △年1月 工事完成 (△年3月) △年6月 | 円 6,000,000 | 円 0 | 円 6,000,000 | △年6月30日 | 計画に関する諸条件キ (9月の入札不調を踏ま えた取付道路の施工範囲 の見直し) |

1-1

入札不調に伴い計画や設計の見直しを行った場合は、「再設計積算」として当該見直し作業から契約に至るまでの期間を記載してください。
原則として「設計積算」又は「再設計積算」の終期と工事等の着手月は連続します。

具体的な計画変更・見直し内容を記載してください。
入札不調の場合は（ ）書き期間の記載は不要です。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

繰越事由が工事着手後の工法の変更による場合

- ✓ 工事着手後に河床の状況変化が判明し、基礎工法の見直しに不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が工事着手後の工法の変更による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）防災・安全交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|----------------------------------|-------------------------------|--|------------------------|------------------------|------------------|-----------------|---------------|--|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 河川改修事業の補助 （一級河川○○川ほか5 箇所分） | 一級河川○○川 ○○市○○町地先 ～○○町地先 | ○○市○○町地先 ～○○町地先 河川改修事業 護岸工事 L=○○m 盛土工 V=1,000m ³ 護岸工（CB張） A=500m ² 根固めブロック N=30個 | 地元調整 ○年4月 | 円 150,000,000 | 円 108,000,000 | 円 42,000,000 | △年4月30日 | 設計に関する諸条件 イ （河床の状況変化による 基礎工法の変更） （8月） |
| | | | 設計積算 ○年5月～6月 | | | | | |
| | | | 工事着手 ○年7月 | | | | | |
| | | | 設計変更 （ - ） ○年8月 | | | | | |
| | | | 工事完成 （△年3月） △年4月 | | | | | |

契約月としてください。

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

1-1

繰越事由が工事用用地借地交渉の難航による場合

- ✓ 地権者との工事用用地の借地交渉が、借地料で折り合いがつかず3ヶ月延びたため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が工事用用地借地交渉の難航による場合

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事 業 概 要 | （当初計画） 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|----------------------------|------------------------|---|--|------------------------|-------------|-----------------|---------------|-----------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 一級河川○○川左岸護岸工事の 補助（○○地先） | 一級河川○○川 ○○市○○地先 | ○○市○○地先 護岸(左岸)工事 L=50m 護岸工（CB積） A=○○㎡ | 借地交渉 (○年5月～8月) (○年5月～11月) 設計積算 (○年9月～10月) (○年12月～△年1月) 工事着手 (○年11月) △年2月 出水期による工事中断 (-) △年6月～10月 工事完成 (△年3月) △年11月 | 円 27,500,000 | 円 0 | 円 27,500,000 | △年11月30日 | 用地の関係 イ (価格) (8月～11月) |

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

契約（予定）月としてください。

工事期間が延伸する理由があれば、明瞭簡潔に記載してください。
延伸理由の記載がない場合、工事期間は、原則として当初と変更後で同じとなります。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

繰越事由が用地・補償交渉の難航による場合 (契約前に事由が発生した場合)

- ✓ 物件移転にかかる補償交渉が、地権者と補償価格で折り合いがつかず当初予定より1ヶ月延びたため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が用地・補償交渉の難航による場合（契約前事由）

箇所別調査及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|---|---------------------------|--|------------------------------------|------------------------|-------------|-----------------|---------------|------------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 県道○○号線○○工区 交差点改良事業に係る 用地買収及び物件移転補償 の補助 | 県道○○号線 ○○工区 ○○市○○地内 | ○○市○○地内 交差点改良事業 | 家屋等調査 ○年5月～6月 | 円 10,000,000 | 円 0 | 円 10,000,000 | △年4月30日 | 補償処理の困難 ア (価格) (8月～9月) |
| | | 家屋等調査 | 用地・補償交渉 (○年7月～8月) ○年7月～9月 | | | | | |
| | | 用地買収 A=○○㎡ (○○100-1・101・ 102・103) | 契約手続き (○年9月) ○年10月 | | | | | |
| | | 物件移転補償 (建物・立木等) ○件 | 物件移転 (○年10月～△年3月) ○年11月～△年4月 | | | | | |

用地買収については、全ての地先（地番）を記載してください。記載しきれない場合は「別添のとおり」としたうえで全ての地番がわかる既存の資料等を添付してもかまいません。

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

（注）（目の細分）ごとに別業とし、合計を記載すること。

移転補償については、主な補償物件の種類と契約件数を記載してください。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

1

繰越事由が用地・補償交渉の難航による場合 (契約後に事由が発生した場合)

- ✓ 物件移転着手後に、移転先用地の契約が白紙となり、移転先用地の再詮索に2ヶ月の不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった場合。

繰越事由が用地・補償交渉の難航による場合（契約後事由）

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | （当 初 計 画） 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予 定 年 月 日 | 事 由 |
|---|---------------------------|--|-----------------------------|------------------------|----------------|----------------|-------------------|---|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 県道○○号線○○工区 交差点改良事業に係る 用地買収及び物件移転補償 の補助 | 県道○○号線 ○○工区 ○○市○○地内 | ○○市○○地内 交差点改良事業 | 用地・補償交渉 ○年5月～6月 | 円 10,000,000 | 円 4,000,000 | 円 6,000,000 | △年5月31日 | 補償処理の困難 ウ （移転先用地の契約が 白紙となったため、 移転先再詮索） （9月～10月） |
| | | 用地買収 A=○○㎡ （○○100-1・101・ 102・103） | 契約手続き ○年7月 | | | | | |
| | | 物件移転補償 （建物・立木等） ○件 | 物件移転着手 ○年8月 | | | | | |
| | | | 移転先再詮索 （ - ） ○年9月～10月 | | | | | |
| | | | 物件移転完了 （△年3月） △年5月 | | | | | |

1

用地買収については、全ての地先（地番）を記載してください。記載しきれない場合は「別添のとおり」としたうえで全ての地番がわかる既存の資料等を添付してもかまいません。

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

移転補償については、主な補償物件の種類と契約件数を記載してください。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

不測の事象が複数生じた場合 ①

- ✓ 工事施工中に新たに山腹斜面の崩壊があり、設計変更を行った結果事業増となったため、年度内の事業完了が困難となった場合。

不測の事象が複数生じた場合 ①

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）山地治山総合対策事業費補助

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事 業 概 要 | (当 初 計 画) 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事 業 完 了 予 定 年 月 日 | 事 由 |
|---------------------------|-------|--|---|------------------------|-----------------|----------------|----------------------|--|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 山腹崩壊予防事業の補助 (○地区ほか○箇所) | ○市○地区 | ○市○地区 治山事業 土留工 ○基 緑化工 ○ha | 設計積算 ○年5月～7月 工事着手 ○年8月 設計変更 (-) ○年9月～10月 土留工施工期間 (-) ○年11月～12月 工事完成 (△年3月) △年7月 | 円 20,000,000 | 円 12,000,000 | 円 8,000,000 | △年7月31日 | 設計に関する諸条件イ (山腹斜面の拡大崩壊 による土留工の追加) (9月～10月) |

1-1

契約月としてください。

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

繰越事由が複数ある場合、計画欄には全ての事象を項目立てし、「事由」欄には当該事務・事業が年度内に終わらないことが確定した事由を記載してください。

（注）（目の細分）ごとに別葉とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名： | |
| 担当者氏名： | |
| 電話番号： | |

不測の事象が複数生じた場合 ②

- ✓ 補償交渉が補償額で折り合いがつかず、工事着手に遅れが生じたことにより、豪雪地域における工事不可能期間に工期が及んだため、年度内の事業完了が困難となった場合。

不測の事象が複数生じた場合 ②

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）山地治山総合対策事業費補助

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当 初 計 画) 変 更 計 画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予 定 年 月 日 | 事 由 |
|----------------------------|---------|--|---|------------------------|-------------|-----------------|-------------------|-------------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| 山腹崩壊予防事業の補助 (○○地区ほか○箇所) | ○○市○○地区 | ○○市○○地区 治山事業 土留工 ○基 緑化工 ○○ha 立木補償 ○本 測量設計業務 ○○㎡ | 立木伐採補償交渉 (○年6月～8月) ○年6月～10月 設計積算 (○年6月～8月) ○年6月～10月 工事着手 (○年9月) ○年11月 工事不可能期間(豪雪地域) (-) △年1月～3月 工事完成 (○年12月) △年5月 | 円 10,000,000 | 円 0 | 円 10,000,000 | △年5月31日 | 補償処理の困難 ア (価格) (8月～10月) |

契約(予定)月としてください。

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

事由となる事象が生じたことにより、工事期間が当初から定められている(あるいは想定しうる)工事不可能期間に及ぶこととなった場合、当該工事不可能期間を計画欄に項目立てしていただきますが、事由とすることはできません。
他の事象(本事例は「補償交渉の難航」)を事由としてください。

1-2

(注) (目の細分)ごとに別業とし、合計を記載すること。

| | |
|--------|--|
| 担当部課名: | |
| 担当者氏名: | |
| 電話番号: | |

既翌債承認額の増額変更

- ✓ 工事着手後に地元から迂回路のルート変更要望があり、その調整に2ヶ月不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった。翌債承認後、新たな崩落により対策面積の追加が生じたことから事業量が増大し、翌債必要額が増額となった場合。

(P 8 の事例の翌債承認後に翌債必要額が増額となった場合)

既翌債承認額の増額変更

別紙

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの変更の分）

(目の細分) 防災・安全交付金

| 事項 | 箇所名 | 事業概要 | (当初計画)変更計画 | 翌年度にわたる債務負担を必要とする額 | | | 事業完了予定年月日 | 事由 |
|----------------------------------|-------------|--|--|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------|--|
| | | | | 本年度分 | 左の額の支出見込額内訳 翌年度分 | | | |
| 落石防護柵設置等工事の補助 (〇〇市〇〇地内ほか10箇所) | 〇〇市 〇〇地内 | 〇〇市〇〇地内 落石防護柵設置等工事 (当初) 斜面安定工 A = 1,230㎡ 落石防護柵工 L = 180m | 地元調整 ○年 4月 設計積算 ○年 5月～7月 工事着手 ○年 8月 地元再調整 ○年 8月～9月 | 円 (99,000,000) 44,336,000 | 円 (20,000,000) 17,734,000 | 円 (79,000,000) 26,602,000 | △年8月31日 | 設計に関する諸条件 イ (新たな崩落による対策面積追加) (11月～12月) |
| | | (主な増分) 斜面安定工 A = 550㎡ 落石防護柵工 L = 80m | 設計変更 (-) ○年 11月～12月 工事完成 (△年 5月) △年 8月 ※設計変更により1ヶ月増工 | | | | | |
| | | ほか 10箇所分 | | (100,600,000) 0 | (59,840,000) 0 | (40,760,000) 0 | | |
| 1件 | 合計 | 11箇所 | | (199,600,000) 44,336,000 | (79,840,000) 17,734,000 | (119,760,000) 26,602,000 | | |

事項名は既承認の翌債と同一名としてください。

主な増分について、記載してください。

変更となった箇所以外の箇所については、一括で記載してください。

上段に翌債の既承認額分を()外書き、下段に今回増額分を本書きしてください。

翌債承認以降発生した事由を記載してください。

設計変更により事業量が増加した場合等、再設計積算期間に加え、更に1ヶ月の工期延伸をする場合、計画欄下部に当該内容を記載してください。

既翌債に係る「承認年月日」及び「承認番号」を記載してください。

1-1

(注) (目の細分)ごとに別業とし、合計を記載すること。

担当部課名 :
担当者氏名 :
電話番号 :

既翌債承認額の増額変更（P37の事例に係る承認要求書）

関東財務局長 殿

番 号
令和 年 月 日

支出負担行為担当官 ○○県土木部長

翌年度にわたる債務負担の承認要求書（変更の分）

国土交通省所管

令和○年度 一般会計

支出負担行為担当官 ○○県土木部長に係る分

| 部局等、項及び目（目の細分）並びに事項 | 支出負担行為計画 示 達 額 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 摘 要 | | | |
|--|-------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|---------------------|-------------------|
| | | | 本年度分 | 翌年度分 | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の 相手方及び年月日 | 事務事業の既済高 及び検査年月日 | 事務事業の 完了の見込年月日 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | | | |
| (組織) 国土交通本省 | | | | | | | | |
| 280 社会資本総合整備事業費 | | | | | | | | |
| 47052-1825-00 防災・安全交付金 | 716,410,000 | (199,600,000) 44,336,000 | (79,840,000) 17,734,000 | (119,760,000) 26,602,000 | | | | |
| (目の細分) 防災・安全交付金 | 716,310,000 | (199,600,000) 44,336,000 | (79,840,000) 17,734,000 | (119,760,000) 26,602,000 | | | | |
| (事項) 落石防護柵設置等工事の補助 (○○市○○地内 ほか10箇所) | 243,936,000 | (199,600,000) 44,336,000 | (79,840,000) 17,734,000 | (119,760,000) 26,602,000 | (199,600,000) 44,336,000 | ○○県知事 令和○年○月○日 ほか○回 | | 令和△年 8月31日 |
| (その他の事項) | 472,374,000 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |
| (その他の目の細分) | 100,000 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |

「箇所別調書及び理由書」と一致します。

1 事項に複数の箇所がある場合は、当該事項内における最終の事業完了見込年月日を記載してください。

○翌年度にわたる債務負担を必要とする理由 別紙理由書のとおり。

費用分担

- ✓ 「費用分担」とは、1つの事務・事業にかかる経費（費用）を複数の異なる予算費目で分担するものです。
- ✓ 相互の事項については、金額欄以外の記載内容（事業概要、計画、事由等）が一致します。
- ✓ また、「事項名」については、一方もしくは双方の事項に複数の箇所がある場合を除き一致します。

費用分担

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 | |
|-----------------------|-----------------|--|--|------------------------|-------------|------------------|---------------|---|----------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | | |
| 〇〇施設建築工事の補助 (〇〇街区) | 〇〇市〇〇 (〇〇街区) | 〇〇市〇〇 (〇〇街区) 〇〇市市街地再開発事業 【事業主体】 〇〇市 【事業年度】 〇～△年度 〇〇施設建築工事 RC-10 延べ面積10,000㎡ 〇年度分 基礎工事 本事業は費用分担により 実施するものである。 | 基本計画の策定 (〇年4月) 〇年4月～5月 設計積算 (〇年5月～6月) 〇年6月～7月 工事着手 (〇年7月) 〇年8月 工事完成 (△年3月) △年4月 | 円 320,000,000 | 円 0 | 円 320,000,000 | △年4月30日 | 計画に関する諸条件 エ (建物面積及び配置) (4月～5月) | 1 (2) |

(目の細分) のないものは、
(目) を記載してください。

どの事項との費用分担かが判るように、
対応する事項の番号を () 書で記入
してください。

（目）市街地再開発事業費補助

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 | |
|-----------------------|-----------------|--|--|------------------------|-------------|------------------|---------------|---|----------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | | |
| 〇〇施設建築工事の補助 (〇〇街区) | 〇〇市〇〇 (〇〇街区) | 〇〇市〇〇 (〇〇街区) 〇〇市市街地再開発事業 【事業主体】 〇〇市 【事業年度】 〇～△年度 〇〇施設建築工事 RC-10 延べ面積10,000㎡ 〇年度分 基礎工事 本事業は費用分担により 実施するものである。 | 基本計画の策定 (〇年4月) 〇年4月～5月 設計積算 (〇年5月～6月) 〇年6月～7月 工事着手 (〇年7月) 〇年8月 工事完成 (△年3月) △年4月 | 円 150,000,000 | 円 0 | 円 150,000,000 | △年4月30日 | 計画に関する諸条件 エ (建物面積及び配置) (4月～5月) | 2 (1) |

費用分担により事業を実施する旨を、「事業概要」欄にそれぞれ
記載してください。

費用分担（P40の事例に係る承認要求書）

関東財務局長 殿

番 号
令和 年 月 日

支出負担行為担当官 ○○県都市整備部長

翌年度にわたる債務負担の承認要求書

国土交通省所管

令和○年度 一般会計

支出負担行為担当官 ○○県都市整備部長に係る分

| 部局等、項及び目（目の細分）並びに事項 | 支出負担行為計画 示 達 額 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 摘 要 | | | |
|-------------------------|-------------------|------------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------|---------------------|-------------------|
| | | | 本年度分 | 翌年度分 | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の 相手方及び年月日 | 事務事業の既済高 及び検査年月日 | 事務事業の 完了の見込年月日 |
| (組織) 国土交通本省 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | | | |
| 280 | | | | | | | | |
| 社会資本総合整備事業費 | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| 47052-1825-00 | | | | | | | | |
| 社会資本整備総合交付金 | 586,000,000 | 320,000,000 | 0 | 320,000,000 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (目の細分) 社会資本整備総合交付金 | 580,000,000 | 320,000,000 | 0 | 320,000,000 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | (0) | ○○市長 | | |
| (事項) ○○施設建築工事の補助 (○○街区) | 320,000,000 | 320,000,000 | 0 | 320,000,000 | 320,000,000 | 令和○年○月○日 | | 令和△年 4月30日 |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (その他の事項) | 260,000,000 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (その他の目の細分) | 6,000,000 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 057 | | | | | | | | |
| 都市再生・地域再生整備事業費 | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| 44052-1865-00 | | | | | | | | |
| 市街地再開発事業費補助 | 355,000,000 | 150,000,000 | 0 | 150,000,000 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | (0) | ○○市長 | | |
| (事項) ○○施設建築工事の補助 (○○街区) | 150,000,000 | 150,000,000 | 0 | 150,000,000 | 150,000,000 | 令和○年○月○日 | | 令和△年 4月30日 |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (その他の事項) | 205,000,000 | 0 | 0 | 0 | | | | |

○翌年度にわたる債務負担を必要とする理由 別紙理由書のとおり。

合併施行

- ✓ 「合併施行」とは、異なる複数の事務・事業を、それぞれの予算費目を合併して一括施行するものです。
- ✓ 相互の事項については、計画、事由等の記載内容が一致します。
- ✓ また、事項名については、一方もしくは双方の事項に複数の箇所がある場合を除き一致します。

合併施行

箇所別調書及び理由書（翌債承認に係るもの）

（目の細分）社会資本整備総合交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|-----------------------|-----------------|---|--|------------------------|-------------|------------------|---------------|-------------------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| ○○施設建築工事の補助 (○○街区) | ○○市○○ (○○街区) | ○○市○○ (○○街区) ○○市市街地再開発事業 【事業主体】○○市 【事業年度】○～△年度 ○○施設建築工事 RC-10 延べ面積10,000㎡ ○年度分 基礎工事、1F躯体工事 本事業は合併施行により 実施するものである。 | 基本計画の策定 (○年4月) ○年4月～5月 設計積算 (○年5月～6月) ○年6月～7月 工事着手 (○年7月) ○年8月 工事完成 (△年3月) △年4月 | 円 320,000,000 | 円 0 | 円 320,000,000 | △年4月30日 | 計画に関する諸条件エ (建物面積及び配置) (4月～5月) |

どの事項との合併施行かが判るように、
対応する事項の番号を()書で記入
してください。

1
(2)
補正
(1次)

（目）市街地再開発事業費補助

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事 項 | 箇 所 名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 事業完了 予定年月日 | 事 由 |
|-----------------------|-----------------|---|--|------------------------|-------------|------------------|---------------|-------------------------------------|
| | | | | | 本年度分 | 翌年度分 | | |
| ○○施設建築工事の補助 (○○街区) | ○○市○○ (○○街区) | ○○市○○ (○○街区) ○○市市街地再開発事業 【事業主体】○○市 【事業年度】○～△年度 ○○施設建築工事 RC-10 延べ面積10,000㎡ ○年度分 電気設備工事 機械設備工事 給排水工事 本事業は合併施行により 実施するものである。 | 基本計画の策定 (○年4月) ○年4月～5月 設計積算 (○年5月～6月) ○年6月～7月 工事着手 (○年7月) ○年8月 工事完成 (△年3月) △年4月 | 円 150,000,000 | 円 0 | 円 150,000,000 | △年4月30日 | 計画に関する諸条件エ (建物面積及び配置) (4月～5月) |

合併施行により事業を実施する旨を、「事業概要」欄にそれぞれ記載してください。

補正予算の場合は、「補正」と記入し、
下段の()書きには何次補正かを記入
してください。

2
(1)
補正
(1次)

合併施行（P43の事例に係る承認要求書）

関東財務局長 殿

番 号
令和〇年〇月〇日

支出負担行為担当官 ○〇県都市整備部長

翌年度にわたる債務負担の承認要求書

国土交通省所管

令和〇年度 一般会計

支出負担行為担当官 ○〇県都市整備部長に係る分

| 部局等、項及び目（目の細分）並びに事項 | 支出負担行為計画 示 達 額 | 翌年度にわたる債務 負担を必要とする額 | 左の額の支出見込額内訳 | | 摘 要 | | | |
|-------------------------|-------------------|------------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------|---------------------|-------------------|
| | | | 本年度分 | 翌年度分 | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の 相手方及び年月日 | 事務事業の既済高 及び検査年月日 | 事務事業の 完了の見込年月日 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | | | |
| (組織) 国土交通本省 | | | | | | | | |
| 280 | | | | | | | | |
| 社会資本総合整備事業費 | | | | | | | | |
| 47052-1825-00 | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| 社会資本整備総合交付金 | 586,000,000 | 320,000,000 | 0 | 320,000,000 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (目の細分) 社会資本整備総合交付金 | 580,000,000 | 320,000,000 | 0 | 320,000,000 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | (0) | ○〇県知事 | | |
| (事項) ○〇施設建築工事の補助 (○〇街区) | 320,000,000 | 320,000,000 | 0 | 320,000,000 | 320,000,000 | 令和〇年〇月〇日 | | 令和△年4月30日 |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (その他の事項) | 260,000,000 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (その他の目の細分) | 6,000,000 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 057 | | | | | | | | |
| 都市再生・地域再生整備事業費 | | | | | | | | |
| 44052-1865-00 | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| 市街地再開発事業費補助 | 355,000,000 | 15,000,000 | 0 | 15,000,000 | | | | |
| | | (0) | (0) | (0) | (0) | ○〇県知事 | | |
| (事項) ○〇施設建築工事の補助 (○〇街区) | 150,000,000 | 15,000,000 | 0 | 15,000,000 | 150,000,000 | 令和〇年〇月〇日 | | 令和△年4月30日 |
| | | (0) | (0) | (0) | | | | |
| (その他の事項) | 205,000,000 | 0 | 0 | 0 | | | | |

改め明許

- ✓ 翌債の承認を経た後、騒音・振動問題について地元との調整に不測の日数を要したことから年度内出来高が不足し、要繰越額が承認額を超えたため、改めて明許繰越しの承認が必要となった場合。

(P24の事例の翌債承認後に要繰越額が承認額を超えた場合)

- ※ 要繰越額が既翌債承認額を超えた場合は、繰越しの特例が適用されず、改めて明許繰越しの手続きを経る必要があります。

改め明許

別紙

箇所別調書及び理由書（明許繰越しに係るもの）

（目の細分） 防災・安全交付金

※下表中、「○年」は当該年、「△年」は翌年を示しています。

| 事項 | 箇所名 | 事業概要 | （当初計画） 変更計画 | 支出負担行為 計画到達額 | 翌年度 繰越額 | 事業完了 予定年月日 | 繰越事由 |
|-----------------------------|------------------------|--|---|-----------------|----------------------------|---------------|---|
| 河川改修事業の補助 （一級河川○○川ほか5箇所） | 一級河川 ○○川 | ○○市○○町地先 ～○○町地先 | 地元調整 ○年 4月 | 150,000,000 | 52,000,000 | △年 5月31日 | 計画に関する諸条件 ア （騒音・振動） （9月） |
| | ○○市○○町 地先～○○町 地先 | 河川改修事業 護岸工事 L=○○m 盛土工 V=1,000m ³ 護岸工（CB張） A=500m ² 根固めブロック N=30個 | 設計積算 ○年 5月～6月 工事着手 ○年 7月 設計変更 ○年 8月 地元再調整 （ - ） ○年 9月 工事完成 （△年 4月） △年 5月 | | | | |
| | | ほか5箇所 | | 68,000,000 | (28,000,000) 28,000,000 | | 既翌債承認年月日等 令和○年○月○日付 関財主○第○○○号 |
| 1件 | 計 | 6箇所 | | 218,000,000 | (70,000,000) 80,000,000 | | 既翌債に係る 「承認年月日」及び 「承認番号」を記載 してください。 |

1 - 1

事項名は、既承認の翌債
と同一名としてください。

変更となった箇所以外の箇所につ
いては、一括で記載してください。

既翌債承認額を、上段に（ ）内書
きで記載してください。

翌年度への繰越額を本書きで記載して
ください。
※翌債時からの増額分ではなく全額記
載してください。

既翌債に係る
「承認年月日」及び
「承認番号」を記載
してください。

（注）（目の細分）ごとに別業とし、合計を記載すること。

前回翌債承認時から変更のない項目は本書きのみとし、変更がある項目
は、上段に前回翌債承認時の変更計画の期間を（ ）書き、下段に今回変
更された計画期間を本書きしてください。

担当部課名：
担当者氏名：
電話番号：

改め明許（P46の事例に係る繰越計算書）

関東財務局長 殿

番 号
令和〇年〇月〇日

支出負担行為担当官 ○〇県県土整備部長

繰越計算書（明許繰越しの分）

国土交通省所管
令和〇年度 一般会計

| 部局等、項及び目（目の細分）並びに事項 | 支出負担行為計画 示 達 額 | 支出済額及び 支出すべき額 | 翌年度へ繰越額 | | 不用となる べき 額 | ○〇県県土整備部長 | | | |
|-----------------------------------|-------------------|------------------|---------|--------------|---------------|-----------|---------------------|---------------------|-------------------|
| | | | 繰越承認済額 | 要繰越額 | | ○〇県出納長 | | | |
| | | | | | | 摘 要 | | | |
| | | | | | | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の 相手方及び年月日 | 事務事業の既済高 及び検査年月日 | 事務事業の 完了の見込年月日 |
| (組織) 国土交通本省 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | | | |
| 280 社会資本総合整備事業費 | | | | | | | | | |
| 47052-1825-00 防災・安全交付金 | 328,000,000 | 188,000,000 | (0) | (70,000,000) | 0 | | | | |
| (目の細分) 防災・安全交付金 | 318,000,000 | 178,000,000 | (0) | (70,000,000) | 0 | | | | |
| (事項) 河川改修事業の補助（一級河川○○ 川ほか5箇所分） | 218,000,000 | 138,000,000 | (0) | (70,000,000) | 0 | (0) | ○〇県知事 令和〇年〇月〇日 | 63.3% | 令和△年5月31日 |
| (その他の事項) | 100,000,000 | 40,000,000 | (0) | 0 | 0 | | | | |
| (その他の目の細分) | 10,000,000 | 10,000,000 | (0) | 0 | 0 | | | | |

繰越計算書を提出する時点の直近時における当該事項に係る事務事業の既済高をパーセント（小数点第2位以下切捨て）で、またその検査年月日を記入してください。
検査を行っていないものについては「支出負担行為計画示達額」に対する「支出済額及び支出すべき額」の割合をパーセントで記入してください。この場合は検査年月日の記入は不要です。

「箇所別調書及び理由書」と一致します。

1 事項に複数の箇所がある場合は、当該事項内における最終の事業完了見込年月日を記載してください。

国庫債務負担行為

- ✓ 工事着手後に住民から騒音・振動対策について苦情があり、その調整に1ヶ月の不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった場合。
 - ※ 国庫債務負担行為は、国会の議決を受けることによって、最長5年間にわたる債務の伴う契約を結ぶことができる制度です。なお、国庫債務負担行為にかかるものは1事項1箇所としてください。

国庫債務負担行為

箇所別調書及び理由書（明許繰越しに係るもの）

（目）公立学校施設整備費負担金

※下表中、前年を☆、当該年を○、翌年を△で示しています。

| 事項 | 箇所名 | 事業概要 | (当初計画) 変更計画 | 支出負担行為 計画示達額 | 翌年度 繰越額 | 事業完了 予定年月日 | 事由 |
|---|---------------|--|--|------------------|------------------|---------------|--|
| 〇〇市立〇〇小学校校舎新築事業の 負担金 (国債R○歳出化分 (R☆-R△)) | 〇〇市立 〇〇小学校 | 〇〇市〇〇 〇-〇-〇 校舎新築 全体面積 RC-3 延 〇〇〇m ² 補助対象面積 RC-3 延 〇〇〇m ² | 工事着手 〇年4月 地元再調整 (-) 〇年8月 工事完成 (△年3月) △年4月 | 円 300,000,000 | 円 160,000,000 | △年4月30日 | 計画に関する諸条件 ア (騒音・振動) (8月) (R☆・〇・△国債歳出化分) R☆実績 50,000千円 R○ 300,000千円 R△ 400,000千円 計 750,000千円 |

1

「事由」・「発生時期」の整合を図ってください。

（注）（目の細分）ごとに別表とし、合計を記載すること。

各年次の歳出化予算額を記載してください。
歳出化予算額がない年次（契約を行ったが支払を行わない年次）がある場合も、当該年次について「0円」「0千円」等と記載してください。

担当部課名：
担当者氏名：
電話番号：

国庫債務負担行為（P49の事例に係る繰越計算書）

関東財務局長 殿

番 号
令和〇年〇月〇日

事項名の末尾に「(国債R〇歳出化分(R☆-R△))」(R☆-R△)は、当該国庫債務負担行為契約にかかる(初年次-最終年次)と記載してください。

支出負担行為担当官 ○〇県教育長

繰越計算書（明許繰越しの分）

文部科学省所管
令和〇年度 一般会計

| 部局等、項及び目（目の細分）並びに事項 | 支出負担行為計画示達額 | 支出済額及び支出すべき額 | 翌年度へ繰越額 | | 不用となるべき額 | 支出負担行為担当官 ○〇県教育長 | | | |
|---|---------------|---------------|----------|--------------------|----------|------------------------------|------------------------|---------------|--|
| | | | 繰越承認済額 | 要繰越額 | | 官署支出官 ○〇県会計管理者 | | | |
| | | | | | | 摘 要 | | | |
| | | | | | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の相手方及び年月日 | 事務事業の既済高及び検査年月日 | 事務事業の完了の見込年月日 | |
| (組織) 文部科学本省 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | | | |
| 054 公立文教施設整備費 | | | | | | | | | |
| 14071-1825-16 公立学校施設整備費負担金 | 1,200,000,000 | 1,040,000,000 | (0) 0 | (0) 160,000,000 | (0) 0 | | | | |
| (事項) ○〇市立○〇小学校校舎新築事業の負担金 (国債R〇歳出化分(R☆-R△)) | 300,000,000 | 140,000,000 | (0) 0 | (0) 160,000,000 | (0) 0 | (750,000,000) 100,000,000 | (令和☆年〇月〇日) 令和〇年〇月〇日 | 46.6% | |
| (その他の事項) | 900,000,000 | 900,000,000 | (0) 0 | (0) 0 | (0) 0 | | | | |

上段に()書で当初の支出負担行為済額及び年月日を記入してください。

繰越計算書を提出する時点の直近時における当該事項に係る事務事業の既済高をパーセント(小数点第2位以下切捨て)で、またその検査年月日を記入してください。検査を行っていないものについては「支出負担行為計画示達額」に対する「支出済額及び支出すべき額」の割合をパーセントで記入してください。この場合は検査年月日の記入は不要です。

下段に当該年度の歳出化分に係る支出負担行為済額(=支出決定済額)及び支出負担行為年月日を記入してください。
(記載例では「支出済額 及び支出すべき額」140,000,000円のうち「支出(決定)済額」100,000,000円、今後支出(決定)すべき額40,000,000円であるものとして記入しています。

事故繰越し

事故繰越しを必要とする理由書(通常用)

支出負担行為担当官 **〇〇県〇〇部長**

①事故繰越しの概要

| | | | |
|---------|--|-------------|--------------|
| 所管・会計 | 〇〇省・一般会計 | 組織・項 | 〇〇本省・〇〇整備事業費 |
| 「目的」の名称 | 〇〇整備事業費補助 | 「目的」の細分」の名称 | 〇〇整備事業費補助 |
| 事項名 | 〇〇県〇〇基礎整備事業費補助(〇〇地区(ほか〇〇箇所)のうち△△地区 | | |
| 箇所名 | △△地区 | | |
| 所在 | 〇〇県〇〇市〇〇地先 | | |
| 事業内容 | 道路新設 L=〇m W=〇m、用地買収 A=〇㎡、物件補償 立木〇本 倉庫〇棟 【うち今回繰越し対象】 道路新設 L=〇m W=〇m | | |
| 要繰越額 | 3,000,000 円 | | |

②明許繰越・密債

| | | |
|-----------------------|--------|-----------|
| 明許繰越し(密債)の承認番号及び承認年月日 | 承認番号 | 承認年月日 |
| | 〇〇〇〇 号 | 令和〇年1月20日 |

| | | | | | |
|------|------------------------------|-----------|--------------|-------|---------|
| 事項名 | 〇〇県〇〇基礎整備事業費補助(〇〇地区(ほか〇〇箇所)) | | | | |
| 箇所名 | △△地区 | | | | |
| 繰越事由 | 計画に関する諸条件 | 設計に関する諸条件 | 象徴の関係 | 用地の関係 | 補償処理の困難 |
| | 内容 | | その他の場合は事由を記入 | | |
| | 価格 | | | | |

事項名、箇所名、繰越事由欄については、「箇所別調査」及び理由書を添付する場合は記入不要です。

③

| | |
|-----------|-------------|
| 支出負担行為年月日 | 令和〇年4月1日 |
| 支出負担行為済額 | 5,000,000 円 |

④

| | |
|---------|-----------------|
| 事故発生年月日 | 令和〇年8月15日 (~) |
|---------|-----------------|

⑤

| | |
|------|---|
| 事故事由 | <p>本工事は、RO.3.311に契約締結(工期:RO.8.31まで)したものである。</p> <p>RO.8.15 道路新設工事を進めていたところ、地盤が想定していたよりも軟弱である箇所が出現したため、工事を中断。</p> <p>RO.8.15~RO.11.15 詳細調査、対策検討及び設計見直し(軟弱地盤の範囲を調査したうえで、地盤改良工を追加)</p> <p>RO.11.16 工事再開</p> <p>以上、8月15日から11月15日にかけて約3か月の不測の日数を要したほか、当地域では、12月15日から3月31日までの約3か月間は冬期工事中止期間となるため、年度内の事業完了が困難となった。</p> |
|------|---|

⑥

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 当初の事業計画 | 令和〇年4月1日 ~ 令和〇年11月30日 |
| 明許繰越し(密債)後の事業計画 | 令和〇年4月1日 ~ 令和〇年8月31日 |
| 事故繰越し後の事業計画 | 令和〇年4月1日 ~ 令和〇年4月30日 |

⑦事業の遅れに繋がった他の原因があれば、その原因等を事業計画との比較(中断・再開時期の理由、工期の長期化の理由など)で説明してください。

RO.4.16 工事により発生する振動について、近隣住民から苦情が生じたため、対策を検討。(1.5ヶ月)

| | |
|---------|-------------------|
| 連絡先 | 〇〇県〇〇部〇〇課 |
| TEL(内線) | 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇(〇〇〇) |
| 担当 | 〇〇 〇〇 |

理由書(通常用)

繰越計算書

関東財務局長 殿

番 号
令和〇年12月1日

支出負担行為担当官 ○〇県〇〇部長

繰越計算書（事故繰越しの分）

○〇省所管
令和〇年度 一般会計

支出負担行為担当官 ○〇県〇〇部長
官署支出官 ○〇県出納長

| 部局等、項及び目（目の細分）並びに事項 | 支出負担行為計画 示 達 額 | 支出済額及び 支出すべき額 | 翌年度へ繰越額 | | 不用となる べき 額 | 摘 要 | | | | |
|---|-------------------|------------------|-------------|-----------|---------------|-------------|-----------------------------|---------------------|-------------------|---|
| | | | 繰越承認済額 | 要繰越額 | | 支出負担行為済額 | 支出負担行為の 相手方及び年月日 | 事務事業の既済高 及び検査年月日 | 事務事業の 完了の見込年月日 | |
| | | | | | | | | | | 円 |
| (組織) ○〇本省 000 ○〇整備事業費 00000-0000-00 ○〇整備事業費補助 (目の細分) ○〇整備事業費補助 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | | | | |
| | 660,800,000 | 335,800,000 | 312,500,000 | 3,000,000 | | | | | | |
| | 659,000,000 | 334,000,000 | 312,500,000 | 3,000,000 | 9,500,000 | | | | | |
| (事項) ○〇県〇〇基盤整備事業費補助 (○〇地区ほか○箇所)のうち △△地区 | 5,000,000 | 2,000,000 | 0 | 3,000,000 | 0 | (5,000,000) | ○〇県知事 (令和☆年4月1日 ほか1回) | 40.0% | 令和△年4月30日 | |
| (その他の事項) | 654,000,000 | 332,000,000 | 312,500,000 | 0 | 9,500,000 | | | | | |
| (その他の目の細分) | 1,800,000 | 1,800,000 | 0 | 0 | 0 | | | | | |

当該事項に係る支出負担行為済額の全額を上段に（ ）書で記載してください。
(ADAMS IIで帳票作成を行う際に、「国債、継続費、事故に係る負担行為済額」欄に金額を入力してください。)

繰越計算書を提出する時点の直近時における当該事項に係る事務事業の既済高をパーセント（小数点第2位以下切捨て）で、またその検査年月日を記入してください。検査を行っていないものについては「支出負担行為計画示達額」に対する「支出済額及び支出すべき額」の割合をパーセントで記入してください。この場合は検査年月日の記入は不要です。

上段に（ ）書きで、当初の支出負担行為年月日（交付決定日）を記載してください。支出負担行為が数回に及んでいる場合、「○年○月○日ほか○回」と記載してください。

「事故繰越しを必要とする理由書」と一致します。

「交付決定状況及び事業費総括表」

事故繰越し対象事業の交付決定状況

(単位：円)

| 符号 | 事項名 | 当初・補正・追加分の別 | 交付決定日 | | 交付決定額 |
|---|----------------------------------|-------------|--------|------|-----------|
| | | | | | |
| 1 | 〇〇県〇〇基盤整備事業費補助（〇〇地区ほか〇箇所）のうち△△地区 | 当初 | R☆.4.1 | ほか1回 | 5,000,000 |
| <p>各欄の額は、「繰越計算書（事故繰越しの分）」の次の欄に記載する額と一致します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「本年度支出（見込）額」⇒「支出済額及び支出すべき額」欄の額 ✓ 「事故繰越額」⇒「要繰越額」欄の額 ✓ 「不用額」⇒「不用となるべき額」欄の額 | | | | | |
| 合 計 | | | | | 5,000,000 |

- ・ 対象の補助金等が、前年度の当初予算 ⇒ 「当初」
- ・ 同上、前年度の補正予算 ⇒ 「補正」
- ・ 同上、本年度予算 ⇒ 「追加分」

補助金等の当初の交付決定日を左欄に記入し、交付決定が複数回に及ぶ場合、右欄に「ほか〇回」と記入してください。

事業費総括表（国費のみ）

(単位：円)

| 区分 | 事項名 | 交付決定額 | 前年度支出済額 | 本年度への繰越額 | 本年度(追加)交付決定額 | 本年度支出(見込)額 | 事故繰越額 | 不用額 |
|------------|----------------------------------|-----------|-----------|-----------|--------------|------------|-----------|-----|
| ① 事故繰越し対象分 | 〇〇県〇〇基盤整備事業費補助（〇〇地区ほか〇箇所）のうち△△地区 | 5,000,000 | 0 | 5,000,000 | 0 | 2,000,000 | 3,000,000 | 0 |
| | 計 | 5,000,000 | 0 | 5,000,000 | 0 | 2,000,000 | 3,000,000 | 0 |
| ② | 明許繰越し時の同一事項内の其他契約分 | | 1,000,000 | 4,000,000 | | | | |
| ③ | 明許繰越し時の事項合計（①+②） | | 1,000,000 | 9,000,000 | | | | |

「繰越計算書（事故繰越しの分）」に記載する事項名を記入して下さい。

本欄の額は、それぞれ、前年度の明許繰越しにかかる「繰越額確定計算書」の「支出済額」欄、及び「翌年度へ繰越額」欄の額と一致します。

理由書（災害復旧・復興事業用）

事故継続しを必要とする理由書（災害復旧・復興事業用）

支出負担行為担当官 ○○県○○部長

①事故継続しの概要

| | | | |
|-------------|--|-----------|----------------|
| 所管会計 | ○○省・一般会計 | 組織項 | ○○本省 ○○災害復旧事業費 |
| 「目的」名称 | ○○災害復旧事業費補助 | 「目的」部分の名称 | ○○災害復旧事業費補助 |
| 事項名 | ○○市に対する令和○○年発生災害に係る○○補助災害復旧工事（第△号ほか○箇所）のうち第○号 | | |
| 箇所名 | 第○号 | | |
| 所在 | ○○県○○市○○町大字○○ | | |
| 事業内容 | ○○復旧事業（復旧延長 L=○m） 舗装復旧工 A=○㎡、擁壁工 V=○㎡ 仮設工一式 | | |
| 具体の災害（被災状況） | 令和○年梅雨前線豪雨により○○が地山路側ごと崩落し、通行不能となった。 | | |
| 要領総額 | 19,235,000 円 | | |

災害復旧・復興事業であることが確認できるような、具体の災害（被災状況）について簡記して下さい

19,235,000 円
ドラッグカンクリスためる選択して下さい。

承認番号
承認年月日

| | | | | | |
|----------|---|--------------|-------|-------|--|
| ②明許継続・変更 | 明許継続し変更の承認番号及び承認年月日 | 関財主○第 | ○○○○ | 号 | 令和○年1月20日 |
| 事項名 | ○○市に対する令和○○年発生災害に係る○○補助災害復旧工事（第△号ほか○箇所） | | | | |
| 箇所名 | 第○号 | | | | |
| 継続事由 | 計画に関する諸条件 | 設計に関する諸条件 | 気象の関係 | 用地の関係 | 補償処理の困難 |
| | 内容 | その他の場合は事由を記入 | | | |
| | 価格 | | | | 資材の入手難 は後継系へ渡すの準備 または相手方の決定の 遅延 |

別添 明許継続し又は変更承認時の「箇所別備書及び理由書」を提出する場合は、「事項名」欄まで記載不要です。

| | | |
|---|-----------|--------------|
| ③ | 支出負担行為年月日 | 令和○年4月1日 |
| | 支出負担行為総額 | 27,500,000 円 |

| | | | | |
|---|---------|-----------|---|-----|
| ④ | 事故発生年月日 | 令和○年5月15日 | ～ | （ ） |
|---|---------|-----------|---|-----|

| | | | |
|---|----|---|---|
| ⑤ | 類型 | 建設資材 | ① |
| | 事由 | RO.515 請負業者から「当該工期において○○が発生したことでより課題の解消に必要な生コンの需要が急増し、工事の継続が困難な状況となっていることから、工期を延長してほしい。」との申し出があった。 RO.515～12月10日 工事中。 以上、5月15日から12月10日にかけて約7か月の不測の日数を要したため、年度内の事業完了が困難となった。 | |
| | 箇所 | ○○市全域 | |

令和○年10月9日付で各省市庁会計課長等あてに発出した財務省主計局可計課長事務連絡第3794号「災害復旧・復興事業（経費）に係る事故継続の事務手続について」の別紙2「事故継続しの主な類型と理由の例」を参考に、ドラッグカンクリストから選択して下さい。

| | | | | |
|---|-----------------|----------|---|-----------|
| ⑥ | 当初の事業計画 | 令和○年4月1日 | ～ | 令和○年1月30日 |
| | 明許継続し（変更）後の事業計画 | 令和○年4月1日 | ～ | 令和○年9月30日 |
| | 事故継続後の事業計画 | 令和○年4月1日 | ～ | 令和○年9月15日 |

⑦⑤事故事由の事由欄に記載した内容について、補足すべきものがあれば記入して下さい。
また、事業の遅れに繋がった他の要因があれば、その原因等を事業計画との比較で説明して下さい。
RO.1215～RA.331 冬期工事中止期間

事故が生じた箇所を記載して下さい。（ただし、記載に代えて地図を添付すること可）
なお、事故が特定の箇所に係るものではない場合は記入不要です。

☑ 本件は、具体の災害に係る復旧・復興事業の事故継続であることから、令和○年10月9日付事務連絡第3794号に基づき、本様式により届出するものである。

| | |
|---------|------------------|
| 連絡先 | ○○県○○部○○課 |
| TEL（内線） | ○○-○○○-○○○○（○○○） |
| 担当 | ○○-○○ |

当様式による申請の対象経費であることを理由の上、忘れずに「1」を記入して下さい。

繰越事項内執行状況一覧表

◆ 簡素化分にかかる申請について、前年度に複数箇所を1事項として明許繰越し（翌債）をした補助金の一部について事故繰越しをしようとするケースについて、事項内で予算の流用を行っている場合は、明許繰越し（翌債）承認時から繰越額確定時までの各箇所毎の補助金額の流れがわかる資料を提出してください。既存の管理表があればそちらで結構ですし、次ページの表を参考に作成していただいても構いません。

◆ 記載要領

- 本表については、次のすべてに該当する場合に作成してください。
 - 簡素化分にかかる申請
 - 前年度に複数箇所を1事項として明許繰越し（翌債）をした補助金の一部について事故繰越しをしようとするケース
 - 事項内で予算の流用を行っている場合
- 事故繰越しを行う箇所だけでなく、明許繰越し（翌債）をした事項内のすべての箇所について記載してください。
- 「箇所名」欄には明許繰越（翌債）承認時の「箇所別調書及び理由書」の工事番号を記載してください。
- 「前年度繰越額」欄には、繰越額確定時の各箇所毎の確定額を記載してください。なお、本欄の合計金額は繰越額確定計算書の「今回報告額」と一致します。

繰越事項内執行状況一覧表

◆ 事例

- ▶ 事項「〇〇市に対する令和〇〇年発生災害に係る〇〇補助災害復旧工事（第△号ほか4箇所）」については332,500,000円で翌債承認を受けた後、6,000,000円の支出済額及び1,000,000円の不用額を計上し、325,500,000円で繰越し額の確定を行った。そのうち第〇号について、避けがたい事故により年度内の事業完了が困難となり、19,235,000円を事故繰越しするもの。

前年度繰越し時の事項名

〇〇市に対する令和〇〇年発生災害に係る〇〇補助災害復旧工事
(第△号ほか4箇所)

「繰越計算書」の「支出済額及び支出すべき額」と一致します。

「繰越計算書」及び「事故繰越しを必要とする理由書」の「要繰越額」と一致します。

| 番号 | 箇所名 | 翌債（明許）承認時の箇所別調書及び理由書 | | 翌債（明許）承認後事項内流用額 B | 前年度支出済額（国費請求額） C | 前年度不用額 D | 前年度繰越額 E (A+B-C-D) | 今年度事項内流用額 F | 流用後金額 G (E+F) | 今年度支出見込額 H | 今年度不用額 I | 今回事故繰越額 J (G-H-I) |
|----|------|----------------------|-------------|-------------------|------------------|-----------|--------------------|-------------|---------------|-------------|----------|-------------------|
| | | 「本年度分」欄 | 「翌年度分」欄 A | | | | | | | | | |
| 1 | 第△号 | 0 | 60,000,000 | 0 | 1,000,000 | 0 | 59,000,000 | 0 | 59,000,000 | 59,000,000 | 0 | 0 |
| 2 | 第□号 | 0 | 82,500,000 | -2,500,000 | 0 | 0 | 80,000,000 | 0 | 80,000,000 | 80,000,000 | 0 | 0 |
| 3 | 第〇号 | 0 | 25,000,000 | 2,500,000 | 0 | 0 | 27,500,000 | 0 | 27,500,000 | 8,265,000 | 0 | 19,235,000 |
| 4 | 第◎◎号 | 0 | 15,000,000 | 0 | 5,000,000 | 0 | 10,000,000 | 0 | 10,000,000 | 10,000,000 | 0 | 0 |
| 5 | 第☆☆号 | 0 | 150,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 | 149,000,000 | 0 | 149,000,000 | 149,000,000 | 0 | 0 |
| 合計 | | 0 | 332,500,000 | 0 | 6,000,000 | 1,000,000 | 325,500,000 | 0 | 325,500,000 | 306,265,000 | 0 | 19,235,000 |

「繰越額確定計算書」の「今回報告額」と一致します。

「繰越計算書」の「支出負担行為計画示達額」と一致します。

「工程表」

- ◆ 対象となる事務・事業について、表上段に当初又は翌債（明許繰越し）承認時の工程等を、表下段に変更後の工程等を記載してください。
- ◆ 本年度中に当該事務・事業が終わらないことが確定した直接の原因（避けがたい事故）については、太字で明示してください。
- ◆ 「事故繰越しを必要とする理由書」の記載内容と整合を図ってください。

※工程が理由書に網羅的に記載されている場合は提出不要です。

| 年 計 月 画 | 令和☆年度 | | | | | | | | | | | | 令和○年度 | | | | | | | | | | | | 令和△年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|----------|----------------|---|------------------------------------|--------------|---|---|-----------|----|----|--------------|---|---|-------------|---|------------|---|---|---|-----------|--|--|--|--|----------|-------------|--|--|--|--|--|--|--|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | | | | | | | | | | | | | | |
| 当初又は翌債等承認時の変更計画 | 地元調整 | | | | | | | | | | | | 3/31契約 設計積算 | | | 工事期間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | [Blue bar] | | | | | | | | | | | | [Orange bar] | | | [White bar] | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 変更計画 | 地元調整 | | | | | | | | | | | | 設計積算 | | | 地元再調整 | | | 冬期工事中止期間 | | | | | | | | | | | | 4/30 工事完成 | | | | | | | | | | | | | |
| | [Blue bar] | | | | | | | | | | | | [Orange bar] | | | [Yellow bar] | | | [Red bar] | | | [Yellow bar] | | | [White bar] | | | | | | | | | | | | [White bar] | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 4/1 工事着手 | | | 8/15～11/15 軟弱地盤箇所が出現したことによる工事中断 | | | | | | | | | | | | 11/16 工事再開 | | | | | | | | | 4/1 工事再開 | | | | | | | | |

審査表（別紙2-1）

箇所別調書の事項名ではありません。

繰越計算書（事項別内訳表）の事項（予算書上の事項）を記入願います。

繰越計算書（明許繰越しの分）審査表

令和 ○年度

所管： ○○省

会計（組織・勘定）： ○○本省・○○会計

(項) ○○

(事項)

○○に必要な経費

(目) ○○

年度～(目)までの各項目欄は、アダムスIIの打出し帳票から記入する。
(繰越計算書)

| 番号 | 審査事項（要件等） | 確認 |
|----|---|----|
| 1 | 各省各庁の長から繰越しの手續に関する事務委任を受けているものである。 | |
| 2 | 予算書の丙号繰越明許費に該当している。 | |
| 3 | 予算参照書の丙号繰越明許費要求書に掲げられている事由に該当している。 | |
| 4 | 前年度に明許繰越しによって繰り越した経費の再繰越しではない。 | |
| 5 | 予算書、予算参照書、各目明細書等と照合し、予算に定められた目的に反していないものである。 | |
| 6 | 契約等に定められている内容に沿って実施されている。 | |
| 7 | 繰越事由及び事由発生時期は妥当である。 着工年月日、竣工予定年月日等の状況が繰越しをするうえにおいて支障がない。 | |
| 8 | 支出負担行為未済の事業は ない。 あるが、繰り越すことはやむを得ない。 | |
| 9 | 翌年度にわたる債務負担の承認手続きをすべきものではない。 | |
| 10 | 既に翌年度にわたる債務負担を していない。 しているものがある。 | |
| 11 | 前金払又は概算払は していない。 しているが、支払った金額は適正である (過払いとはなっていない。) | |
| 12 | 予備費使用に係る経費 ではない。 である。 | |

○：該当し、確認済み

記載例 -：該当なし

△：その他（余白又は別紙で内容を記載）

| 番号 | 審査事項（提出書類） | 確認 |
|--------|--|----|
| 13 | 繰越計算書の書式は適正に作成されている。記入すべき箇所は全て適正に記入されている。 | |
| 14 | 部局等、項及び目（目の細分）の名称並びにコード番号が適正である。 | |
| 15 | 事項のたて方（名称等）は適正である。 | |
| 16-i | 「予算現額」又は「支出負担行為計画示達額」欄について、目までの金額の積上げが適正である。 | |
| 16-ii | 支出負担行為計画示達額は、示達された支出負担行為計画と一致している。 | |
| 17 | 「支出済額及び支出すべき額」欄は、妥当な金額である。（特に前金払、概算払） | |
| 18-i | 「翌年度へ繰越額」欄の前回までの「繰越承認済額」欄の金額は適正である。 | |
| 18-ii | 「翌年度へ繰越額」欄の「要繰越額」欄の金額は、積算の内容も含め検討した結果、適正である。 | |
| 19 | 「不用となるべき額」欄は妥当な金額である。 | |
| 20-i | 「摘要」欄の「支出負担行為済額」欄は、実際に支出負担行為がなされた金額である。 | |
| 20-ii | 「摘要」欄の「支出負担行為の相手方及び年月日」欄は、適正である。 | |
| 20-iii | 「摘要」欄の「事務事業の既済高及び検査年月日」欄は、適正、かつ繰越事由、完了見込み等から判断して適当である。 | |
| 20-iv | 「摘要」欄の「事務事業の完了の見込年月日」欄は、進捗状況等から判断して適当である。 | |
| 21 | 繰越計算書（事項別内訳表）の事項（予算書上の事項）及びそのコードが適正に記載されている。 | |
| 22-i | 箇所別調書及び理由書の記入すべき箇所は、全て適正に記入されている。 | |
| 22-ii | 繰越事由・事由発生時期等について、支出負担行為の時期及び完成までの期間、事業の進捗状況等からみて適当である。 | |

審査要領を基に確実に審査してください。

審査表（別紙2-2）

箇所別調書の事項名ではありません。
承認要求書（事項別内訳表）の事項（予算書上の事項）を記入願います。

翌債承認要求書 審査表

年度～（目）までの各項目欄は、アダムスIIの打出し帳票から記入する。
（承認要求書）

令和〇年度 所管： 〇〇省

会計（組織・勘定）： 〇〇本省・〇〇会計

（項） 〇〇

（事項） 〇〇に必要な経費

（目） 〇〇

| 番号 | 審査事項（要件等） | 確認 |
|----|---|----|
| 1 | 各省各庁の長から翌債の手續に関する事務委任を受けているものである。 | |
| 2 | 予算書の丙号繰越明許費に該当している。 | |
| 3 | 予算参照書の丙号繰越明許費要求書に掲げられている事由に該当している。 | |
| 4 | 前年度に明許繰越しによって繰り越した経費ではない。 | |
| 5 | 国庫債務負担行為の歳出化予算ではない。 | |
| 6 | 債務負担が、予算書、予算参照書、各目明細書等と照合し、予算に定められた目的に反していないものであり、また、法令に違反するものではない。 | |
| 7 | 財務大臣の承認以前に翌年度にわたる債務負担を行っていない。 また、翌々年度以降にわたる債務負担ではない。 | |
| 8 | 契約等に定められている内容に沿って実施されている。 | |
| 9 | 翌債事由及び事由発生時期は妥当である。 着工年月日、竣工予定年月日等の状況が翌債をするうえにおいて支障がない。 | |
| 10 | 債務負担額は支出負担行為計画示達額を超えていない。 | |
| 11 | 支出負担行為未済の事業は ない。 あるが、翌債とすることは妥当である。 | |
| 12 | 前金払又は概算払は していない。 しているが、支払見込額は適正である（過払いとはならない。）。 | |
| 13 | 予備費使用に係る経費 ではない。 である。 | |

| 番号 | 審査事項（提出書類） | 確認 |
|--------|--|----|
| 14 | 翌債承認要求書の書式は適正に作成されている。記入すべき箇所は全て適正に記入されている。 | |
| 15 | 部局等、項及び目（目の細分）の名称並びにコード番号が適正である。 | |
| 16 | 事項のたて方（名称等）は適正である。 | |
| 17-i | 「支出負担行為計画示達額」欄について、目までの金額の積上げが適正である。 | |
| 17-ii | 支出負担行為計画示達額は、示達された支出負担行為計画と一致している。 | |
| 18 | 「翌年度にわたる債務負担を必要とする額」欄は、適正な金額である。 | |
| 19-i | 「左の額の支出見込額内訳」欄の「本年度分」欄の金額は適正である。 | |
| 19-ii | 「左の額の支出見込額内訳」欄の「翌年度分」欄の金額は適正である。 | |
| 20-i | 「摘要」欄の「支出負担行為済額」欄は、実際に支出負担行為がなされた金額である。 | |
| 20-ii | 「摘要」欄の「支出負担行為の相手方及び年月日」欄は、適正である。 | |
| 20-iii | 「摘要」欄の「事務事業の既済高及び検査年月日」欄は、適正、かつ翌債事由、完了見込み等から判断して適当である。 | |
| 20-iv | 「摘要」欄の「事務事業の完了の見込年月日」欄は、進捗状況等から判断して適当である。 | |
| 21 | 翌債承認要求書（事項別内訳表）の事項（予算書上の事項）及びそのコードが適正に記載されている。 | |
| 22-i | 箇所別調書及び理由書の記入すべき箇所は、全て適正に記入されている。 | |
| 22-ii | 翌債事由・事由発生時期等について、支出負担行為の時期及び完成までの期間、事業の進捗状況等からみて適当である。 | |

○：該当し、確認済み

記載例 -：該当なし

△：その他（余白又は別紙で内容を記載）

審査表（別紙2-3）

箇所別調査の事項名ではありません。

繰越計算書（事項別内訳表）の事項（予算書上の事項）を記入願います。

繰越計算書（事故繰越しの分）審査表

令和 ○年度

所管： ○○所管

会計（組織・勘定）： ○○本省・○○会計

(項) ○○

(事項)

○○に必要な経費

(目) ○○

年度～(目)までの各項目欄は、アダマスIIの打出し帳票から記入する。
(繰越計算書)

| 番号 | 審査事項（要件等） | 確認 |
|----|--|----|
| 1 | 各省各庁の長から繰越しの手續に関する事務委任を受けているものである。 | |
| 2 | 前年度に事故繰越しで繰り越した経費の再事故繰越しではない。 | |
| 3 | 前年度に明許繰越しで繰り越した経費の事故繰越し ではなく、丙号繰越明許費の経費又は丙号繰越明許費要求書の事由に該当しない。 である。 | |
| 4 | 本年度内に支出負担行為がなされている。 | |
| 5 | 避け難い事故が、支出負担行為後に発生したものである。 | |
| 6 | 事故繰越事由は、異常な天然現象・地権者の死亡・工事中の崩落事故による中断等、真にやむを得ないものである。 | |
| 7 | 支出負担行為の時期、金額、契約の相手方等は適正である。 | |
| 8 | 関連経費として繰り越す経費は ない。 あるが、内容・積算は適正である。 | |

| 番号 | 審査事項（提出書類） | 確認 |
|--------|--|----|
| 9 | 繰越計算書の書式は適正に作成されている。記入すべき箇所は全て適正に記入されている。 | |
| 10 | 部局等、項及び目（目の細分）の名称並びにコード番号が適正である。 | |
| 11 | 事項のたて方（名称等）は適正である。 | |
| 12-i | 「支出負担行為計画示達額」欄について、目までの金額の積上げが適正である。 | |
| 12-ii | 支出負担行為計画示達額は、示達された支出負担行為計画と一致している。 | |
| 13 | 「支出済額及び支出すべき額」欄は、妥当な金額である。（特に前金払、概算払） | |
| 14-i | 「翌年度へ繰越額」欄の前回までの「繰越承認済額」欄の金額は適正である。 | |
| 14-ii | 「翌年度へ繰越額」欄の「要繰越額」欄の金額は、積算の内容も含め検討した結果、適正である。 | |
| 15 | 「不用となるべき額」欄は妥当な金額である。 | |
| 16-i | 「摘要」欄の「支出負担行為済額」欄は、実際に支出負担行為がなされた金額である。 | |
| 16-ii | 「摘要」欄の「支出負担行為の相手方及び年月日」欄は、適正である。 | |
| 16-iii | 「摘要」欄の「事務事業の既済高及び検査年月日」欄は、適正、かつ繰越事由、完了見込み等から判断して適当である。 | |
| 16-iv | 「摘要」欄の「事務事業の完了の見込年月日」欄は、進捗状況等から判断して適当である。 | |
| 17 | 繰越計算書（事項別内訳表）の事項（予算書上の事項）及びそのコードが適正に記載されている。 | |
| 18 | 繰越事由・事由発生時期について、支出負担行為の時期及び完成までの期間、事業の進捗状況等からみて、やむを得ない（避け難い）ものである。 | |

○：該当し、確認済み

記載例 -：該当なし

△：その他（余白又は別紙で内容を記載）

審査要領を基に確実に審査してください。